

若手地方議員の活動サポートについて(案)

1. 目的・仮説

- 現代の日本政治は閉鎖的であり、競争戦略やマーケティング戦略等のビジネス界のノウハウを十分に活用できていないと推測される。
- そこで、ビジネスの各方面において活躍をしているメンバーが集まり、日本政治に対して、そのノウハウの提供や適用を行うことを本活動の目的とする。
- 政治とは国民の生活に密接に関わりのある身近なものであり、まずは最も身近な地方議員の活動についてサポートをすることで、現実的な効果を出していきたいと考えている。
- また、地方議員を取り巻く環境は、人材やノウハウという点において国会議員のそれよりは劣っており、そこに強いニーズがあると考えている。
- 次代を担うのは若者であり、その若者を代弁するような地方議員が少ないのが現状のため、サポートのターゲットは主に若手地方議員と考えている。

2. ゴールのイメージ

当該サポートを通じて、政治研としては、地方議員・地方議会の「見える化」を実現したいと考えている。具体的には、議員のサポートを実施することにより見えてくる事項を各メディアで適宜発表し、広く国民の目に晒すことで、国民の地方議会に対する理解度を上げていきたいと考えている。

また、世襲や、経営者、自営業者、地主以外の、例えばビジネスパーソン出身の議員をサポートすることにより、政治の世界の裾野を広げ、様々な人がチャレンジをできる仕組み作りに貢献したいと考えていると同時に、地方議員の平均年齢の低下も実現したいと考えている(現行の制度では基本的にビジネスパーソンは退職をして挑戦せざるを得なく、落選したときの身分保障がないと言えるため、それが政治を閉鎖的にしている原因の一つとの認識を持っている)。

3. 地方議員のニーズ・悩み(想定)

地方議員が普段感じているニーズや悩みには以下の様なものと想定。

- ・ 議員立法を実現したいが、法案の作成方法がわからない。また、それをサポートしてくれる十分なスタッフがいない。
- ・ 有権者のニーズが分からない。
- ・ 有権者が自分のことをどの様に評価しているのか、また、自分の考えがどこまで理解されているのかがわからない。
- ・ 有権者とのコミュニケーション方法(どの様にしてニーズを聞きだし、どの様にメッセージを届けばよいのか)がわからない。
- ・ 政策問題について日々建設的な議論をできるスタッフがいない。
- ・ 競合する議員が何を考え、何を主張しているのがよくわからない。
- ・ 日々の資金管理をどの様に行えばよいのかよくわからない。
- ・ 政策立案に必要な情報をどこから入手すれば良いのかがわからない。
- ・ 地方を活性化させるアイデアがほしい。
- ・ 理想的なマニフェストの作り方がわからない。
- ・ 第三者的な立場からマニフェストの進捗状況を調査してほしい。

4. サポート内容

- 当会がその考えに賛同をする議員に対してサポートすることを前提としている。
- 選挙のサポートを行うことは前提としておらず、当選後の議員に対しての日々の政治活動のサポートを中心と考えている。
- 議員のコンサルタント的な役割を想定しており、上記の様な議員のニーズ・悩みに対し、各メンバーと協議をしながら、適宜最適なソリューションを提供していきたいと考えている。